

インタビュー「ごちゃまぜな人」第1回

佐藤 成展 さん

株式会社ハニーズ 取締役執行役員管理本部副本部長 兼 人事部長



特例子会社であるハニーズハートフルサポートでは、主には物流センターの清掃、洋服の検品・お直し、本社の事務補助などの業務をしております。ハニーズ本体の物流センターでは、海外から入荷する段ボールで梱包された商品の荷受け、整理や、ECサイトで購入されたお客様への配送の補助など。皆さんやりがいを持って業務に当たってくれていますよ。

ハートフルサポートの従業員に仕事を切り出すということを通じて、個人や部署の業務をさらに効率化できました。客観的に自分の業務を把握するためにも、子会社の設立はプラスに働いたと感じています。実際には、まだまだ切り出せることがあると思いますので、もう一步、この業務の切り出しを進めて、障がいのある方にもどんどん仕事を任せていきたいと考えています。

ハニーズは、2003年に上場後、ものすごいスピードで店舗数を拡大しました。常用雇用者もどんどん増え、それに合わせて障がい者を雇用する必要があったため、

GOCHAMAZE keyword 「特例子会社」

障がい者の雇用においては、従業員50名以上の会社は全体の2.0%以上の障がい者を雇用することが義務付けられていますが、会社の事業主が、障がい者に特別な配慮をした子会社を設立し、要件を満たす場合には、その子会社に雇用されている障がい者を親会社全体で雇用されているものとして数えてよいことになっています。このようにして設立されたのが特例子会社です。

多様な採用で会社の発展を

障がいを持った人たちがいかに雇用し、やりがいを持って働いてもらうことで自立に繋げていくのか。日本と中国に千三百を超える店舗を持つ、いわき市のグローバル企業「ハニーズ」の人事部長であり、同社の特例子会社「ハニーズハートフルサポート」代表取締役の佐藤成展さんは、グローバル企業の障がい者雇用に取り組む一人。同社の取り組みについて話を伺いました。

佐藤成展 (さとう・しげのぶ)

1975年新潟県十日町市生まれ。早稲田大学人間科学部卒業。株式会社伊勢丹(現三越伊勢丹)を経て、2005年より株式会社ハニーズ入社。ハニーズ入社後は採用・人事労務管理に従事し、現在に至る。

どうしても「数字を達成する」ことを追求めてしまいがちでした。上場企業として数字を追求めることは大変重要ですが、なかなか障がいのある従業員の能力や特性を引き出すというところまでは達していなかったように思います。

弊社のようなビジネスモデルで障がい者雇用を促進するためにはどのようにしたらよいかと考えたときに、様々な情報を頂けたのが「いわき市障がい者職親会」でした。特別支援学校など教育の現場、就労支援の立場から様々な情報を頂くことができるようになり、先進的に障がい者雇用に取り組んでいる企業や、同じような課題を抱えている企業からお話を伺う機会が増えました。

徐々に弊社の問題も少しずつクリアされ、現在のような体制まで持ってくることができました。障がい者雇用というのは、企業で努力することはもちろん、関係機関や企業同士で情報を共有していくことが非常に重要であると感じています。

多様な人たちと対話しながら業務に当たるといのは、従業員1人ひとりのコミュニケーションスキルの向上にも繋がります。聴覚障がいを持つ従業員のいるグループには、よりよいコミュニケーションができるようにと、自ら手話を学び始めた従業員も生まれました。それだけ成長機会があるということなのかもしれません。

障がい者を雇用することは企業の責任です。しかし、だからといって数だけ追求めても意味がありません。職親会が「ともにたたく、ともにかがやく」というテーマを掲げているように、障がいの有無に関係なく、一緒に働く仲間のことを理解し、お互いが効率よく仕事をし、してもらうにはどうすればよいかを、各従業員が意識していくことが重要だと思います。その結果、会社がより良い方向に発展するのではないのでしょうか。これからもこの取り組みをさらに進めていきたいと考えています。

いわきから「ごちゃまぜ」あらゆる障がいのない社会へ

GOCHAMAZE times

vol.1

2016 SUMMER

ごちゃまぜタイムス 創刊

-CONTENTS-

[GOCHAMAZE REPORT] ごちゃまぜコーヒーパーティ

[Talk Session] 北山剛 × 宮本英美さん(地域活性プロジェクト MUSUBU)

[Interview] 佐藤成展さん(株式会社ハニーズ)

[Others] ソーシャルスクエア内郷から / green bird いわきチーム通信 and more...

宮本英実さん

地域活性プロジェクトMUSUBU代表
いわき市小名浜出身 ニューヨーク在住

“ごちゃまぜに学び合える場を地道に作り続けながら、20年とか30年とか経ったときに、私たちには想像もできないような社会ができあがっていくんだと思います。”

北山剛

ソーシャルデザインワークス株式会社 代表取締役

“人間は本来、障がいなんて気にせず交流し合っている。そのことを、子どもを通じて親も学んでいくんです。”

ごちゃまぜに学び合う環境って、どういうことだろう

ソーシャルデザインワークス代表の北山剛が出会った地域のキーパーソンに話を聞く対談企画「Kitayama's TalkSession」。今回は、いわき市の地域活性プロジェクト MUSUBU の代表を務め、現在はニューヨークに活動の場を広げている宮本英実さん。伺ったのは、キャリア形成と多様性のお話。国や文化を超えて見えてきたビジョンとは。北山と宮本さんが語り合いました。

多様性の都市から

北山 ニューヨークでのご活躍、SNSなどでよく目にしてましたよ。ニューヨークというと、本当に人種の坩堝で、世界で最も多様性が根付いた都市じゃないかと思いますが、実際に住んでみて感じることはありますか？

宮本 そうですね、多様であることが意識しなくても当たり前になっているっていう印象ですね。例えば、友だちと食事とかをすると、友人を紹介し合ったりするんですけど、生まれた場所も人種も国籍もバラバラの人たちが集まる。電車の中でも、街でも、どこでも。

北山 出自もそうですが、自分の考えや主張を普通にオープンにしている感覚がいいですね。日本ってどちらかというとアンタッチャブルな空気になってしまうし、そうでなくても中途半端な、曖昧なところで話をしゅっと閉じてしまいます。

宮本 そうなんです。本当にシンプルに「みんな違っていることが当たり前」という意識が共有されてる。ニューヨークは特に色々な人種、宗教の人たちがいますから、その多様な人たちの多様なあり方が常に日常の中にあるんです。

北山 ほくらの言葉だと「ごちゃまぜ」の状態があるということですね。違いがあるから、自分なりに考えるきっかけにもなるし、お互い主張がしやすくなる。

宮本 はい、むしろ主張しないとそこに存在しないことになりやすから。例えば日本なら髪を金色にしてそれが

個性だ、なんてことが起こり得ますけど、それだけで個性だなんてことはありません。自分の考えを主張することが常に求められます。

北山 ブルックリンの町はどうですか？住んでいて町の変化を感じることはありますか？

宮本 そうですね、やっぱり変化のスピードは速いです。家賃の安いところには、移民やアーティストなどマイノリティとされる人たちが集まってきて、面白い場所などができると、今度はそこに商店などができて活気が出てくる。そこに不動産価値が生まれ、周りに住宅が整備され、地価が上がってくると、もともといた人は居られなくなりますが、今度はまた新しい土地に向かっていく。そんな風に町の変化のスピードがはっきりと感じられますね。

一人勝ちではない社会を

北山 宮本さんにとって、お気に入りの町ってどういう特徴がありますか？

宮本 大きな観光地っぽいやつが1カ所あるような場所ではなくて、行きたい場所が複数あるような町が好きですね。おいしいカレー屋に寄って、公園に行ってカフェに行く、みたいな。町のなかに回遊が生まれるようなところが好きです。例えば、大きなショッピングモールって便利だけど、そのなかですべての用事が済んでしまうので、実はそんなに興味湧かないんです。

北山 なるほど、1カ所だけじゃ地域は魅力的にならないってことですね。実は今日、スクエアの2階で、い

わきで就労移行支援に関わる人たちのミーティングが行われるんですけど、それも構造は同じで、1カ所だけが突出するんじゃなく、地域全体の力を底上げしようっていうことなんです。

宮本 私もそういうのはもっとやったほうがいいと思っていて、逆に言えば、いろんな業界がそれをやらざるを得なくなってきていると思います。みんなで盛り上がらないと意味がないと思うんです。

北山 同感ですね。結局、ほくらがなぜ事業を行うかといったら、障がいを持った方、そしてそのご家族が暮らしやすい地域を作ることなんです。だから1カ所だけがうまくいっていてもしょうがないというか。事業所というのはそれぞれ得意なことが違います。こんな障がいの場合はここだなとか、こういう状態ならあそこのこういうカリキュラムが役に立つかなとか、他の事業所の取り組みを知っておかないと地域全体の底上げにならないんですよ。ほくもあまり「一人勝ち」には魅力を感じないなあ。

宮本 そうですね、本当にそう思います。まずはそれぞれの個を知る。そのあとに連携がある。日本で言う連携って「平均化される」傾向もあると思うんですけど、違いが明確に分かってないと連携なんてできませんし。だから、そういう連携のできる思考回路を持つ人たちを、どれだけ地域の中に増やしていけるかが、より地域を作るために必要なことかもしれません。

北山 そう。つまり地域を育てていくには、人を育てていかないとはいけなくて。

宮本 私も、震災後に地元であるいわきに帰ってきて活動する中で、教育って大事だなって強く思うようになりました。そう思っているときに、「Good Try Japan」という、中高生向けのキャリア教育プログラムを知って、今そのプログラムのお手伝いもさせてもらってるんです。

北山 おお、宮本さんが教育プログラムに関わってるわけですね？

宮本 はい。アメリカに来た子どもたちと一緒に、いろんな企業を回って、そこで働いている日本人に話を聞いたり、学びの機会を提供するプログラムです。

子どもたちに“突飛な”経験を

北山 どんなプログラムですか？詳しく聞かせて下さい。

宮本 プログラムの舞台はシリコンバレーなんですけど、シリコンバレーって、伝統的に失敗を良しとする場所なんです。あそこでは、みんな同じことを言わなければいけない、なんてことは絶対に起きません。何を言っても否定されないし、失敗しても「それはチャレンジの証だ、次また頑張ろう」と言ってくれる。そういう場所に身を置くという経験は、なかなか国内で積むことはできない気がします。

北山 やっぱり経験なんですよ。親になって教育に対する考えが変わって、ほくは限られた選択肢のなかでしか選べなかったけれど、娘にはもっと多様な選択の中から選び取った経験をして欲しい。大事なのは小中学校生くらいの年ごろに突飛な経験をすることだと思っていて、

でも国内にはそういう場所がありませんのね。いい経験だなあ。ほくも小学校くらいのときにそれを感じたかったなあ。

宮本 それに、普段学校の友だちには言えないような、こんなことをしてみたいとか、こんなことが自分の夢なんだとか、そういう話をちゃんと聞いてくれる仲間を持つってことも大きいと思います。日本だと素晴らしい才能も「お前なんてできっこない」とか「はやく進学先を決めろ」なんてことを言われちゃいますからね。そういう経験を通して「実はこれがしたかったんだ」って、心の本音の部分を語れるようになるんです。

北山 そうなのが小さい時からできるのがいいんだね。

未来を創る学びの場

宮本 日本って「同じであること」が当たり前とされていて、「違うことはダメ」みたいなのがありますよね。でもそれだと突出した才能もきれいに角が取れて形を整えられてしまう。だから結局最後は「大人に対する教育」も必要になってくるなど。今の子どもたちがそういう環境に慣れて大人になったときに、今よりもっとマイノリティが生きやすくなってたらいいなって。

北山 子どもが変わると親も変わるんですよ。「ごちゃまぜ」のイベントも、子どもたちだけではなく保護者もいらっやいます。子どもが家では見せない言動や表情を見て、親も大きな刺激を受けます。ごちゃまぜイベントでは、子どもたちは大人よりもはるかに上手に障がいのある方と接しています。人間は本来、障がいなんて気に

せず交流し合っている。そのことを、子どもを通じて親も学んでいくんです。

宮本 そうですね、ごちゃまぜに学び合える場を地道に作り続けながら、20年とか30年とか経ったときに、私たちには想像もできないような社会ができあがっていくんだと思います。そのためにも、私もまずはニューヨークでもっと貪欲にいろんなことを学んで、それを持って帰ってきてみたいですね。

北山 心強いね。その時はぜひ宮本さんをゲストに呼んで、子どもたちにも話をしてもらいたいです。ぜひまたアメリカの話を聞かせて下さい。これからいわきから応援しています。



profile 宮本 英実(みやもと・ひでみ)
1984年いわき市小名浜生まれ。高校卒業後に上京、音楽プロダクションでマネジメント業務を経験後、レコード会社に勤務し宣伝業務を経験。現在はフリーランスでPR・広報などを行う。現在ニューヨーク在住。
<http://musubu.me/>

スターバックスコラが ごちゃまぜコーヒーパーティ

GOCHAMAZE COFFEE PARTY

05.22sun
SocialSquareUchigo



多様な人々が「ごちゃまぜ」のまま、同じ空間と時間を共有し、思い切り何かを楽しみたい。そんな思いから始まった「ごちゃまぜ」の理念が、ついにグローバル企業の心を動かしました。5月22日、ソーシャルスクエア内郷を会場に、あの「スターバックス」とのコラボイベントを開催。コーヒー講座やキッズパーティなど、たくさんの人たちが「ごちゃまぜ」になって楽しみました。

まずスクエアの2階を会場に行われたのが、スターバックススクールの小室さんによるコーヒー講座。グアテマラ、スマトラ、そしてケニアの3種類のコーヒーを実際にプレス体験し、試飲していくというものです。さすがは現役バリバリのクルー。香りを落とさず、3種類のコーヒー豆の風味を引き立てながら淹れるコツを教えてくださいました。

スクエア1階は、キッズパーティ。シナモンロールを入れるための紙コップを、シールやペンでデコレーションしながら作り、撮影したチェキを貼付けてお土産を作ります。老若男女関わらず楽しい時間を過ごすという「ごちゃまぜ」のコンセプトを、子どもたちにも感じてもらえたのではないのでしょうか。

参加された方の様子を見てみると、コーヒー愛好家は風味や好みについて語り合ったり、子どもは子どもで楽しく工作を楽しんでいたりと、多様な参加者がごちゃまぜのまま、それぞれの時間を楽しむという空間ができあがっていました。それぞれが楽しんでいるから、皆さん終始笑顔。共催した私たちもとてもうれしく感じました。

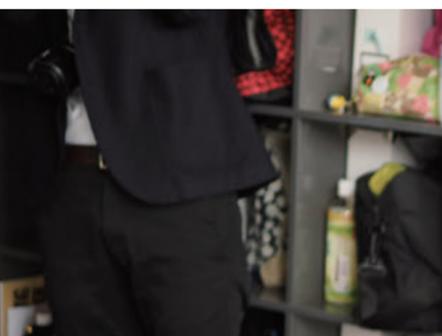
またソーシャルスクエア内郷を卒業し、現在は一般企業に勤めるスクエアOBも駆けつけてくれ、イベントを盛り上げてくれました。障がいの有無に関係なく楽しんでた姿を見て、うれしく思うと同時に、就労移行支援に対する大きなやりがいを感じる瞬間でもありました。

イベント終了時には、スターバックスのクルーが

らサプライズプレゼント。こちらからコラボレーションをお願いしたのにも関わらず、こうして参加者の皆さんのためにプレゼントを用意して下さるとは。同社のサービス精神やおもてなしの心に触れ私たち自身もとても刺激になりました。

楽しみ方も、参加の仕方も、それぞれが置かれた境遇も異なるのに、「1つの空間を楽しむ」ということだけで一体感が生まれ、しかしその一体感も、強制されるわけではなくそれぞれの「楽しい」という思いから生まれている。そんな光景に、改めて「ごちゃまぜ」の力を感じることができました。

これからも、このいわきを、もっと「ごちゃまぜ」にしていきたいと思います！



イベント開催日は、今から約3か月前の5月22日。今でも準備～開催のワクワク感を、今でも鮮明に思い出します。感想を一言で...と言われたら単純かもしれませんが、「感動！幸せな時間」でした。元々は、「コーヒーイベント」のポスターをスターバックス店内で目にしたのがきっかけです。それを見て、ごちゃまぜイベントを開催したら面白い！そしてソーシャルスクエア内郷の利用者さんにも、コーヒーという新たな趣味を持ってもらうきっかけにならないか...と思ったのが、このイベント開催の第一歩。当日は、キッズパーティやコーヒープレスの体験など、主催側だけでなく、地域の方々も参加し、皆と一緒に1つものものを共に創る「共創」が実現できたこと、言葉では言い表せないくらい感激しています。そして、地域に根差した活動の開催場所として、初の出張セミナーを開催できたことも本当に嬉しいです！




松岡真満 / ソーシャルスクエア内郷

小室康明さん / スターバックスいわき鹿島街道店




松岡さんよりコラボイベントのお話があった際、「共創」「地域に根差す」「ごちゃまぜ」という単語がとても衝撃的でした。と言うのも、私達も去年の秋にオープンしてから、お客様で連日、多くのお客様にご来店頂き、感謝の毎日でした。しかし、一方で「地域に愛された店舗になりたい」と思っていたのにも関わらず、なかなか実現できていないことにもどかしさを感じていました。そんな時、イベントのお話を頂き、初めての事で正直不安はありましたが、チャレンジしてみることにしました。当日は、皆様楽しんで頂けたようでとても嬉しく思っております。「共創」に少しでも貢献できたのであればいいなと感じています。また、初めての外部開催で、いわきの皆様とのつながりを深める一歩を大きく踏み出すことができました。今後ぜひ、いわきに根ざす団体として、一緒にイベントなど企画させて頂ければ嬉しいです。

参加者の声

こんなにコーヒーに違いがあることに、驚きました。ただ試飲するだけでなく、スタッフの方からの説明もあり、より一層楽しむことが出来ました。娘の顔は見てもらってありがとうございました。本当に楽しかったです〜！
(かなごさん)

こういう試飲形式のイベントも良いですね！面白いです！コーヒー好きの自分にはたまらない1日でした。コーヒーの美味しいいれ方も勉強させてもらったので、さっそく家でも実践してみたいと思います！ありがとうございました。
(夜明けの松本さん)

普通にお店に行っているだけでは知らなかったようなコーヒー豆の選び方が知れてすごくよかったです！またあったら参加したいです！！
(スクエアメンバーさん)

一度に3種類ものコーヒーの試飲ができるぜい沢な1日を過ごせて嬉しいです！
(ともくんママ)

きょうは、シールをぺたぺたしたり、えをかいてたのしかったです。
(ともくん・4才)




KIDS PARTY!!!! /

ごちゃまぜコーヒーパーティで子どもたちが作ったギフトバッグ。自分たちで絵を描いたり、コラージュしたり、マスキングテープで飾り付けしたり。思い思いに作ったバッグを参加者へのギフトにさせていただきました。

～ソーシャルスクエア内郷から～

ソーシャルデザインワークスが運営する就労移行支援事業所ソーシャルスクエア内郷で行われているカリキュラム、取り組みを紹介！



地域シゴト見学会 | 株式会社ドーム

ソーシャルスクエア内郷では、地域の中に存在するさまざまな「シゴト」の現場を自分の目で見ながら、働くことについて視野を広げ、これからのビジョンを描くことに活かそうと、地域の企業の仕事の現場を見学させて頂く「地域シゴト見学会」を定期的に開催しています。今回訪れたのは、いわき市市場本にある株式会社ドームの物流センター。株式会社ドームはスポーツブランド「アンダーアーマー」の日本総代理店として知られ、Jリーグ入りを目指す「いわきFC」を運営する会社でもあります。

まず驚いたのは正社員の若さ。正社員とパートあわせて 270 名ほど働いているそうですが、その半分以上が正社員で平均年齢は 22 歳。若い社員を抱えると社員教育も大変なのではないかと感じましたが、皆さん生き生きとした表情をしているのが印象的でした。社内にはお風呂や社員用カフェがありました。「休養」を重要視し、実際に企業側でその環境を整えてしまうというのは、驚くべき社風だと思います。

見学を終えて感じたのは、ただ作られたものを詰めて発送する場所ではないということ。身につけてスポーツする人のことを考え、最先端の技術で作られたウェアを誇りに思っている人の手によって梱包され、全国に発送されているのです。現状に満足せず本質を追求し続けるというドームの企業文化に触れた気がしました。スクエアのメンバーにも、大きな刺激になったことでしょう。



セルフマネジメント | こころと行動のスキルアップ講座

同じ出来事でも、認知の仕方によって感情が大きく左右されてしまうのが人間。何かトラブルが起きたときに相手ではなく自分のほうを責めてしまい、辛い精神状態になってしまうことも少なくありません。そこで、感情を客観的に理解するのに役立てようと、認知行動療法の新しいカリキュラム「こころと行動のスキルアップ講座」がスタートしました。ソーシャルスクエア内郷の今泉がカリキュラムを担当します。

講座では「朝、上司に挨拶したけど挨拶が返ってこなかった。そんな時あなたならどう思いますか？」というように、具体的な場面を想定し、出来事に対してどのように認知するかを解剖していきます。多くの人たちは「仕事でミスをしたのではないかな」など、自分のほうを責めてしまいがち。認知行動療法では、いかにマイナス思考を排除するのではなく、一度辛く捉えてしまった考え方を適切な考え方に変えるということに重きを置きます。

多くの場合、自分の行動（考え方）に問題があります。勝手に事実だと思い込んでしまう。他の事実を見逃してしまう。何かのきっかけが起きたときに、自分がどう行動してしまうのか、どんな思考を持ちやすいのか、そのクセを見極めることで、どのようにしていきたいのかを考えます。自分の行動を見直し考える。この繰り返しです。自分の行動を少しずつ変えていきたい。そんな願いを持つメンバーの一助になれば幸いです。

ソーシャルスクエア内郷 メンバー募集中

1年後の自分は、
もっと自分らしく。



ソーシャルスクエア内郷とは、社会と現在の自分を結ぶための広場を創造することをコンセプトに、障害者総合支援法に則った障害福祉サービスを提供している福祉事業所です。障害特性への理解がある支援クルーにより、生活習慣の見直しや働くためのスキル習得など様々なニーズの方にご利用いただける環境を整えています。**就労移行支援**とは、体調管理、コミュニケーション訓練、職業訓練、生活相談などの支援を受けながら支援クルーと一緒に就職と、その後の職場定着を目指していく場所です。**自立訓練（生活訓練）**とは、リラックスできるサードプレイスとして、さまざまな活動を通じ、心に栄養と生活リズムを整え、活力ある人生に一歩ずつ踏み出していく場所です。



実習を通して働く準備を



人生に楽しみを増やしていく



気軽に相談できる場所

お気軽にご相談ください。

TEL|0246-84-8301
9:00 - 17:00 ※年末年始・休業日除く

FAX|0246-84-8302

MAIL|ss_uchigo@sdws.jp



〒973-8404
福島県いわき市内郷内町水之出 17
JR 常磐線内郷駅から徒歩 8 分



ごちゃまぜ | green bird Days in 2016

7月16日(土)～18日(月)の3日間連続で、様々な場所へ出張バード。そして、様々な団体とコラボバードを行ったグリーンバードいわきチーム。その豪華な模様を一挙に紹介！

■16日(土)|いわき市役所とコラボ in 勿来海岸

この日は、いわきの海開きの日で、市役所の職員の方々、そしていわき市の市長も参加され、盛大に海開きイベントが開催されました。私たちは、参加者の方々が気持ちよくご来場頂けるように、勿来駅から会場となる勿来海岸までゴミ拾い。そしてその後は、ビーチクリーンも行いました。実はこの日、福島中央テレビからの取材もあり、子供たちはいつもより張り切っていました！
子どもたちが「自主的に」トング配りやゴミ袋を配ってくれたり、もはや運営をしてくれます。お子さんのパワーは、いわきチームにとって元気の源となっています。

■17日(日)|フェニックスとコラボ in 塩屋崎灯台

ビーチクリーン活動をされているフェニックスさんと一緒に活動！おそうじ場所は、美空ひばりさんの歌碑が建立されていて、観光スポットとしても人気の塩屋崎灯台！とても素敵な場所です。海から流れてくるゴミはきりがありません。壊れかけのヘルメットのようなものや、日本製ではない商品のゴミなど、たくさんありました。
皆さんにケガなく安全に過ごして頂くため、そして何より「ゴミは持ち帰る、海を汚さない」という文化が地域にしっかりと根付いていくまで、継続的に出張バードをする必要性を、この2日続けたのビーチクリーン活動で大きく感じました。

■18日(月)|BLUE SHIPとコラボ in 新川

最終日は、2日連続ビーチクリーンからの！リパークリンです。草が生い茂る中、果敢にも「青いサントタチ」が突入しました！赤いサントタチは、クリスマスにやってきます。青いサントタチは、「海の日」にやってきます。こんなキャッチフレーズのもと、NPO法人海さくら運営の「海の日」限定のイベントにいつもは、緑の軍団がこの日だけ青い団体へと変身しました(笑)
川の上にプカプカと空き缶が浮かんでいたり、水目をよく眺めると沈んでいるゴミもあり。草をかき分ければ、ビニール袋ごと。ゴミ捨て場の感覚で、まとめて捨ててあったりと大量のゴミを拾いました。

グリーンバード
IWAKIteam 通信
keep clean, keep green.
green bird

greenbird いわきチームとは？

私たちは、まちを 깨끗하게!きれいにするためにゴミ拾い活動、もちろん全力で行います。しかし、それ以上に大事にしているのは、この活動をきっかけに、新たなコミュニティが生まれ、それが徐々に「地域に根付くコミュニティ」へと成長していく事です。その地域に住んでいる国籍も、性別も、年齢も、障がいの有無一切関係なく、多種多様な方々と一緒に活動し、何気ない会話をする場を作っていく事も地域に根付き、地域から広げられる一歩になるのではと感じています。

Kitayama's Voice -ソーシャルデザインワークス代表 北山剛から-

私たちソーシャルデザインワークスが掲げるビジョンのひとつに「ごちゃまぜ」というものがあります。年齢、国籍、性別、あるいは宗教の違いや障がいの有無など、私たちが「線」を引いて区別してしまいがちなものを、あえて「ごちゃまぜ」にして、多様な人たちが差を感じることなく何かを楽しみ、何かに打ち込む。そんな場をみんなで共有したい。そして、そんな「ごちゃまぜ」が当たり前の世界を創りたい。そのような思いを込めた言葉です。

この『ごちゃまぜタイムズ』は、「ごちゃまぜ」の世界を、まずは私たちの活動の場、いわき市から伝えていくために発行したフリーペーパーです。ごちゃまぜの理念を体現するイベントのレポート、私たちが運営する障害者支援施設「ソーシャルスクエア」の日常、いわきで「ごちゃまぜ」の理念にも共感して下さり、各地域で頑張っている方々たちへのインタビュー記事などなど。それらを1冊の紙

媒体にまとめ、伝えていきたいと思っています。いわき市は今年、市制 50 周年を迎えます。いわき市の中には、平や内郷、湯本や小名浜、勿来や四倉といった地区があり、固有の歴史や風土、文化を持っています。「いわき市」という大きな枠では捉えきれない魅力が、個々の存在に残されていると思います。いわき市は、多くの人が語るような「パラパラ」の都市ではなく「多様なごちゃまぜ」の町だと読み替えれば、この町ほど「ごちゃまぜ」の理念を伝えていくのに適した土地はありません。世の中から多様性が見失われ、排除の論理が働きがちな現代だからこそ、この土地から「ごちゃまぜ」の世界を創っていききたい。どうぞ皆さんも、ごちゃまぜの世界の住民になっていただければ幸いです。

ソーシャルデザインワークス 代表/
ごちゃまぜタイムズ 発行人 北山剛

編集後記

みなさん GOCHAMAZEtimes を手に取り、そして読んで頂きありがとうございます！タブロイドの創刊は私たちが初めての試みで、正直分らない事だらけです(笑)ただただ「ごちゃまぜの世界観をドンドン広げていきたい」その思いで突っ走っています！
そんなタブロイド第1号、みなさんいかがでしたか。感想やご意見をみなさんから頂いて、発行を重ねるごとに、良いものにしていきたなと思っております！編集後記の場を借りて一言…みなさんどうぞよろしくお願致します！
今回わたしは、スターバックスのイベントやグリーンバードページを担当していますが、記事や写真を見ていて、本当にコラボイベントが出来ちゃったことに、改めて感激しています！ですが、これだけで満足せず、これからもごちゃまぜの世界観を創っていきますよ!!人でも多くの方と素敵な時間を共有したいと思います！
企画 / 松岡真満

やっど、GOCHAMAZEtimes を創刊することが出来ました。前身の広報誌スクエアトビックスから大幅にグレードアップしてより多くのみなさんに見てもらえるようになったので嬉しく思います！
今回、デザインを担当し今までにやったことのないことの連続で、正直こんなにタブロイドのデザインが難しいとは思っていませんでした。イベントのイメージ写真撮りやデコレーションしたポップなデザイン、文字間や行間の微修正、デザインのバリエーションを増やす、印刷会社との調整など苦手なことも多く、作っている間は何度も挫折しそうになりました。しかし、完成させることが出来て、以前よりも出来ることの幅が広がったと思います。いわきにはまだまだ、素晴らしいヒト、モノ、コトが溢れています。このGOCHAMAZEtimes のデザインも進化させてより地元の魅力を伝えられるように頑張っていきたいと思っています。
デザイン / 小松知寛



表紙デザイン コラボアーティスト | tttttan

福島県いわき市小名浜生まれ在住。からみほぐし研究所主宰/線を描く人/線描家/ドローイングアーティスト/からみほぐし造形家/小名浜本町通り商店街の空き店舗を利用し、Alternative Space UDOK. を共同主宰し、そこを拠点に活動中。即興線描表現を中心にライブドローイングや国内外のアーティストとの二人展やコラボ作品の制作、海外への出展、個展などを行う。UDOK. そばの「泡之内庵」と名付けた築 89 年の古民家で又兵衛(猫)、さば(猫)、妻(人間)と暮らす。海まで徒歩 2 分。

GOCHAMAZEtimes 2016 夏号

発行日|2016年8月31日

発行人|北山剛

編集|小松理度(ヘキレキ舎)

デザイン|小松知寛

撮影|今泉俊昭

企画|松岡真満

発行|ソーシャルデザインワークス 株式会社

印刷|株式会社東海共同印刷